

# International Conference on NUCLEAR SECURITY

20-24 May 2024

## SHAPING THE FUTURE



### 核セキュリティに関するIAEA国際会議（ICONS）の参加報告

令和6年10月  
原子力規制庁



## ICONSにおける原子力規制委員会の取組

- ◆ 核セキュリティに関するIAEA国際会議（ICONS）は、核セキュリティサミットの後継の会議体であり、全世界の核セキュリティ対策を更に強化するための方策を議論し、各国の知見の共有を促進すること等を目的としている。  
本会合は2013年から定期的に行われており、本年5月に第4回目が開催され、IAEA加盟国のうち130カ国以上から、2,000人以上の参加者が出席した。
- ◆ 今次会合は、*Shaping the Future*という主題が設定され、特に、AI、ドローン、コンピューターセキュリティ、小型モジュール炉（SMR）等の先端・新興技術に係る核セキュリティ上の課題に関する議論が活発に行われた。
- ◆ 原子力規制委員会からは、田中知委員（当時）が参加し、「進化する核セキュリティ情勢における政策、法律、規制」と題されたプレナリーセッションで、IAEA法務部長、スイス元代表部大使、カナダ規制機関局長、サウジアラビア規制委員会委員とともに、核セキュリティのための政策、規制枠組みを構築する上での課題や経験、教訓について議論した。  
同委員は、特に、改正核物質防護条約の普遍化、信頼性確認を取り入れる際の経験、安全とセキュリティを調和させることの重要性等を指摘し、関連する議論をリードした。
- ◆ 原子力規制庁放射線規制部門から1名が、フラッシュプレゼンテーションに参加し、発表を行った。

## ICONSで得られた知見（核セキュリティ）：安全規制管理官以下5名が参加

---

- ◆ 個別技術セッションでは、核セキュリティに係る「法体系」、「防止・検知・対抗技術」、「人材育成」及び「横断的分野」の4つのテーマに沿った、52のセッションが開催された。各セッションでは、各テーマに係る参加国ごとの取組状況、課題等が共有され、通常では入手が困難な最新の核セキュリティ対策についての情報を得ることができた。
- ◆ このうち、①ドローン、②コンピューターセキュリティ、③核セキュリティ目的での計量管理（NMAC）に係るセッションの状況は以下のとおり。
  - ①：複数のセッションでプレゼンが発表されるとともに、複数国により共同でサイドイベントが開催されるなど、関心度が高い事項として注目された。
  - ②：プレゼン国より、サプライチェーンリスク、攻撃手法のフレームワーク等が説明された。
  - ③：プレゼン国より、保障措置との関係、実施体制、内部脅威対策への貢献等が説明された。

## ICONSで得られた知見（RIセキュリティ）：安全規制管理官以下3名が参加

---

- ◆ 個別技術セッションでは、使用しなくなった線源や身元不明線源の管理に関する報告が複数あり、今後、関心を払う必要がある事項として注目された。また、放射性物質の利用に代わる代替技術に関する報告では、同物質を用いる照射装置から X線発生装置や同物質を用いない加速器に切り替え、必要以上の放射性物質に対する依存を減らしたい旨述べられた。

## 今後の核セキュリティ強化に向けた取組

---

- ◆ 原子力規制庁は、IAEA 核セキュリティシリーズ文書が示す勧告等の国内規制への導入に取り組んできたほか、IAEAが主催する技術会合等に参加するなど、IAEA加盟国として適切に行動している。
- ◆ 本年7月にIAEAの国際核物質防護諮問サービス（IPPAS）ミッションを受け入れ、我が国の核セキュリティ措置等を説明するとともに、質疑応答、意見交換を行い、ミッションチームから、我が国の核セキュリティ体制は強固であるとの見解が示された。また、我が国の核セキュリティ体制を一層強化するための勧告や助言が示されたほか、他のIAEA加盟国にとって参考となる良好事例が挙げられた。  
今回のIPPASミッションの評価結果を踏まえ、引き続き核セキュリティ対策の向上に取り組み、継続的な改善の一環として適切な措置を講じる。